

経済倶楽部誕生とその時代

一般社団法人経済倶楽部理事長
柴生田 晴四

- *記者・編集者の次にデータ事業を担当
- *経済倶楽部は「無形の東洋経済」
- *東洋経済新報社の目指したもの
- *太平洋戦争に至るメディアの責任
- *むのたけじ氏にみるメディアの在り方
- *本当のことを伝えたい大新聞
- *インターネット時代に向き合うか
- *出版界にもある既得権について
- *渋沢栄一について考える
- *中国とはどう付き合うか



日暮 それでは開会いたします。（拍手）

昨日、会員の皆様我突然ご連絡を申し上げましたが、夕方5時頃、本日も講演をお願いしていただきました東京大学名誉教授の御厨先生から今週に入ってオミクロン株を中心に新型コロナウイルス感染者が急増。基礎的疾患があり、お医者様からも出席を取りやめたほうがいいと言われたと。そのため、本日の講演会への出席は出来かねるとの連絡がありました。時間も時間ですので、こちらもたいへん慌てて講師を見つけることもなかなか難しい状況でした。そこで急遽、倶楽部理事長の柴生田が引き受けるということにさせて頂きました。会員の皆様にはぜひご理解、ご了承いただければと思います。

それでは柴生田さんよろしくお願いたしました

す。（拍手）

記者・編集者の次にデータ事業を担当

柴生田 今説明がありました、そういう事情でございまして、今日は政治のお話を聞きにいられた方にはたいへん申しわけないと思います。急遽私のできる範囲のことをお話しして、皆さんの時間を無駄にしたということのないようにしたいと思います。

演題も急遽つくりましたので、話の出だしはその話からいたします。私のプロフィールは申し上げる必要もないかと思いますが、昭和46年、1971年に早稲田大学を出て東洋経済新報社に入社いたしました。会社、産業の取材、執筆を約8年から9年いたしました、その後、編集